

『退院時鎮痛剤需要を指標としたSP-RARPの低侵襲性に関する検討』に関するご協力をお願い

研究の目的と意義	当院では 2024 年 10 月に単孔式手術支援ロボット、ダビンチ SP サージカルシステム（SP）を導入しました。従来の手術支援ロボットを使用する前立腺癌手術では、腹部のキズは 6 か所できますが、SP の手術では 1 ～2 か所とキズが少なくなります。キズが少ない事で退院時に鎮痛剤を必要とする患者さんの割合に変化があるかを調べる研究です。退院時の痛みが少ない事は、手術が身体に与える影響（侵襲 しんしゅう）が少ない事と関連するのではないか、という仮説を検証するために本研究を計画しました。
研究の方法	電子カルテ内の情報、手術時に記録した動画等から情報を取得します。取得する情報は個人情報を含みません。また、本研究のために患者さんに追加して負担を求めることはありません。
対象者	西暦2023年1月1日～2026年5月31日の間に、前立腺癌の診断でロボット支援根治的前立腺全摘術を受けた患者さんのうち、石田勝医師が手術の執刀をした患者さん
利用する試料/情報	情報等：診断名、治療歴、年齢、性別、生年月等
利用する試料/情報の取得方法	診療で得られた診療録等
利用する試料/情報の管理責任者・住所	済生会横浜市東部病院 院長 〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1
研究組織	当院単独研究
試料/情報の院外提供	該当なし
結果公表	日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会で発表予定
試料・情報の利用又は提供開始日	院長による研究実施許可日
研究参加拒否・同意撤回	情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合または一度研究参加に同意された後に同意を撤回される場合は、西暦2026年10月31日までに下記の問い合わせ先にご連絡ください。
当院研究責任者	済生会横浜市東部病院 泌尿器科/センター長/石田 勝
問い合わせ先	〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1 電話045-576-3000(代表) 済生会横浜市東部病院 泌尿器科/石田 勝